「速やかに物書くペン」（詩篇 44（45））に関する覚書
――オフリドのパナギア・ペリブレプトス聖堂壁画研究――

益　田　朋　幸

Notes on the “Pen of a Swift Scribe” (Ps. 44 (45)): Study of the Decoration Program of the Church of Panagia Peribleptos in Ohrid

Tomoyuki MASUDA

Abstract

The inscription in Archangel Gabriel’s hand, on the north door of the narthex in the Panagia Peribleptos church in Ohrid, begins with Ὀξυγράφου καλάμον τῇ χειρὶ. It is a citation from Psalm 44 (45):2 “my tongue is a pen of a swift scribe”. An educated Byzantine would easily remember the Ps 44 from the inscription, and notice that the Psalm was full of imagery of the Virgin Mary.

“Hear, O daughter, and see, and incline your ear, and forget your people and the house of your father...” (44:11-12) is a well-known prefiguration of the Annunciation, and “Virgins behind her will be brought to the king; her companions will be brought to you....” (15-16) is read on the feast of the Presentation of the Virgin to the Temple on 21 November. “Gird your sword on your thigh, O powerful one, in your bloom and beauty” (4) uses the same descriptions as “Look, it is the couch of Salomon! Around it are sixty mighty men of Israel’s might men, all holding a sword at his thigh...” (Songs 3:7-8), which is the source of “Solomon’s Bed” painted on the west wall of the narthex.

According to R. Schroeder, Gabriel’s inscription, together with the scene above, “Dream of Nabuchodonosor,” reminds us of an episode of Daniel 5:5-29. In our church, many scenes based on the Book of Daniel, such as “Three boys in the Fiery Furnace”(diakonikon) or “the Ancient of the Days”(west vault of the naos), are depicted. King Baltassar had sacked the holy vessels from the temple of Jerusalem, which are also painted in the scene of “Moses’ Tabernacle” on the east wall of the narthex. The inscription in Gabriel’s hand is, in this way, connected to many scenes in the church and makes the network of the iconographies complicated.

新旧約を問わず聖書を熟知している教養あるビザンティン人が、聖堂壁画をどのように理解し、鑑賞したかという事例研究である。オフリド（マケドニア）のパナギア・ペリブレプトス聖堂（1294／95 年創建）ナルテクスの壁画、大天使ガブリエルが手にする巻物の銘から話は始まる。

大天使ガブリエルの巻物

「祝福された聖母（パナギア・ペリブレプトス）」に捧げられた聖堂のナルテクスは、聖母マリアを予型する旧約の物語で飾られている。ナルテクスに限らず、本聖堂のフレスコは場面相互が関連しあい、結びついて、複雑な装飾プログラムを形成する。ナルテクスのフレスコ全体に関しては、別稿で記述を行なったので、それを踏まえて稿を進める(1)。聖

(1) 「パナギア・ペリブレプトス聖堂（オフリド）ナルテクスの装飾プログラム」『Waseda RILAS Journal』5 (2017), pp.311-28. https://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2017/10/311-328_Tomoyuki-MASUDA.pdf

堂への主たる出入口はナルテクス西壁にあり、2 枚の観音開き扉が設置される。加えてナルテクス北壁にも 1 枚扉の副次的な出入口が設けられ、扉口右（北）側に本稿が出発点とする大天使ガブリエルのフレスコが描かれている【図 1・2】。扉口左には、十字架と薬箱を手にする医療聖人パンテレイモンが配され、ガブリエルと接する東壁西寄りには大天使ミカエルがいる（何らかの理由で大半が破壊）。

憂い気な表情を浮かべたガブリエル（銘：Ο ΑΡΧ(άγγελος) ΓΑΒΡΙΗΛ）は、体を右方、つまり扉口側に前傾させ、両手で巻物を支えるが、左脇にインク壺を括りつけた筆箱を挟み、右手には葦ペンを持っている【図 3】。葦ペンの先には赤いインクが浸され、その先端は銘文冒頭の赤いイニシャル Ο にかかっている。即ちガブリエル自身が巻物の銘を記している（＝銘文の内容を語っている）ことを示すものである。銘は 8 行に亙って記され、剝落はあるものの、以下のように読める。

> Ὀξυγράφου κα/λάμον τῇ χει/ρὶ φέρω(ν) τ(ῶν) εἰσιώ(ν)/των σὺν ται(ὰς) ἀπογράφω / φρουρῶ στέργοντ(ας,) / εἰ δὲ μή, φθεί/ρω τάχει.(2)
> 速やかに物書くペンを手に持ちて、此処を通る者の身上を書き記さん。我が肯う者は守り、しからざる者は直ちに滅ぼさん。

「最後の審判」における大天使ミカエルの活躍は知られているが、ガブリエルが何もしなかった訳ではない。聖堂の出入りをする者の行いを素早く的確に記録し、もって裁判に役立てる。この銘はパトロンの指示によるものではなく、ミハイルとエウティキオスが画家の手引きや見本帳からとったも

図 1　オフリド（マケドニア）、パナギア・ペリブレプトス聖堂（以下すべて）
ナルテクス北壁

図 2　ナルテクス北壁の大天使ガブリエルと東壁のミカエル（破損）

(2)　A. Rhoby, *Byzantinische Epigramme auf Fresken und Mosaiken*, Wien 2009, pp.153-54; R. Schroeder, “Looking with Words and Images: staging monastic contemplation in a late Byzantine church,” *Word and Image* 28:2 (2012), p.121.

のであろう、とドゥルピチは述べている[3]。15 年ほど後にエヴィア（エウボイア）島のスペリエス、パナギア・オディギトリア聖堂（1311 年）[4]で繰り返されるだけでなく、2 種類のポスト・ビザンティンの画家手引書にも記されるからである。しかし画家は、定型の銘をうまく壁画と組合わせて、観者の鑑賞を誘っている。

銘文冒頭の形容詞 oxygraphos は oxys（鋭い、速い）と graphos（書く）の合成語で、誰にでも意味のとれる語で、Lampe や Sophocles にも用例が載るが、旧約聖書七十人訳（セプトゥアギンタ）には一箇所、第 44 篇（新共同訳＝マサラ本文 45 篇）にのみ用いられる[5]。44 篇には kalamos（葦ペン）の語もあり、すなわち銘文の kalamos oxygraphou（速書きのペン）という表現は、詩篇 44 からの引照である。まずは詩篇 44 を、直訳に近い形で確認しておこう[6]。

図 3　大天使ガブリエル

[2] 私の心は善き言葉を溢れさせた。私は自らの作を王に語る。私の舌は速やかに物書く人のペン[7]。
[3] あなたは人の子らの誰よりも美しく、優美さがあなたの唇に降り注がれ、よって神はあなたを永遠に祝福した。
[4] 剣を腰に佩け、力強き者よ、あなたの盛りと美の中で。
[5] 真実と謙譲と義のために、弓を絞り、栄え、王となれ。あなたの右手は奇跡のようにあなたを導くだろう。
[6] あなたの矢は鋭い、力強き者よ、民はあなたの前に倒れ伏す、王の敵のさなかで。
[7] あなたの王座は、神よ、永遠（とわ）にも永遠です。あなたの王国の笏は、公正の笏。
[8] あなたは正義を喜び、不正を憎んだ。だから神は、あなたの神は、あなたの仲間ではなくあなたに、喜びの油を注いだ[8]。
[9] 没薬と没薬の油、肉桂があなたの衣から（香る）、象牙の宮殿から、
[10] あなたの誉れによって諸王の娘らがあなたを喜ばせた（象牙の宮殿から）。女王は金糸織りの、様々な色で飾られた衣をまとって、あなたの右に立つ。
[11] 聴け、娘よ、見て、耳傾けよ、あなたの民と父の家を忘れよ。
[12] 王はあなたの美を望んだのだから、彼はあなたの主なのだから。
[13] ティロスの娘らは贈り物をもってあなたに従い、大地の民の富は、あなたの顔が向けられることを希う。
[14] 栄光をうちに抱き、王の娘は金の縁取りの衣装をまとって、刺繍を施した服をまとって。

---

(3)　I. Drpić, *Epigram*, *Art*, *and Devotion in Later Byzantium*, Cambridge 2016, pp.29-31.
(4)　Rhoby, pp.153-54.
(5)　エズラ 7：6 に「速い書記」との表現が見られるが、αὐτὸς γραμματεὺς ταχὺς ἐν νόμῳ Μωυσῆ で、語彙が異なっている。
(6)　旧約学による当詩篇研究に関しては、以下参照。A・ヴァイザー、塩谷饒訳『ATD 旧約聖書註解（13）：詩篇（中）』ATD・NTD 聖書註解刊行会、1985 年、pp.20-26；G・A・F・ナイト、尾崎安訳『デイリー・スタディー・バイブル 13：詩篇 I』新教出版社、1990 年、pp.403-13；J・L・メイズ、左近豊訳『現代聖書注解：詩編』日本基督教団出版局、2000 年、pp.284-87；月本昭男『詩篇の思想と信仰 II』新教出版社、2006 年、pp.249-60（七十人訳との差も註記されている）；高橋三郎・月本昭男『エロヒム歌集：詩篇第四二篇～第七二篇講義』教文館、2008 年、pp.37-47。
(7)　わが舌はすみやけく寫字人（ものかくひと）の筆なり（文語訳）／我ガ舌ハ迅書者（じんしょしゃ）ノ筆ナリ（正教会文語訳）／わが舌こそは熟達した書記の筆（月本昭男訳）／わが舌は練達の書記の筆（旧約聖書翻訳委員会、松田伊作訳）
(8)　7-8 節はヘブ 1：8–9 に引用される。また 8 節はイザヤ書 61：1 の引照だとされているが、この箇所はナザレの会堂で説教しようとしたキリストが、渡されたイザヤ書の巻物を開いたところ、出てきた部分に該当する（ルカ 4：16 以下）。「イザヤ書を読むキリスト」は、本聖堂西腕南壁アーチ・ソフィットに描かれている。この場面を含む聖堂南西隅のプログラムに関しては、以下の近刊拙論を参照。「パナギア・ペリブレプトス聖堂（オフリド）南西隅の装飾プログラム」。

[15] 乙女らは彼女について王の下に来る。彼女の仲間らはあなたの下に来る。
[16] 彼女らは喜びと賛美をもって来る、王の神殿に導かれる。
[17] あなたの父祖の場に（父たちの代わりに）、あなたの息子らは生まれた。あなたは彼らを、地上すべての長とする。
[18] 彼らはあなたの名を、幾世々までも記憶するだろう、よって民はあなたに、永遠（とわ）にも永遠に感謝を捧げるだろう。

詩篇本文

本論に入る前に、詩篇テクストに関して註記する。ビザンティン研究において、旧約はヘブライ語（マソラ）本文ではなく、七十人訳ギリシア語版に基づくべきことは、今日常識であるが、校訂版に関する議論はほとんど見られない。セプトゥアギンタ校訂版の主たるものは古くブレントン(9)、近年ではラールフス(10)であり、上訳文はラールフス版に拠った(11)。文献学者は多くの写本を校合し、ヘブライ語原文との関係も考慮して本文を決定する。しかしその文献学的に精確な本文は、実際にビザンティン人が馴染んだものと等しいのであろうか。

試みに、首都コンスタンティノポリスのストゥディオス修道院で 1066 年に制作された、代表的挿絵入り詩篇写本である「テオドロス詩篇（London, BL, Add.19352）」(12)の第 44 篇を、活字本と比較してみる。冠詞の有無や単語の別綴程度は少なからず見受けられるが、意味の変わる異同も存在する。13 節「ティロス（ティルス）の娘ら」は、ブレントン、ラールフスでは複数形であるが、「テオドロス詩篇」は単数形を採っており、マソラ本文に近い。この箇所は後述するように「受胎告知」の予型と捉えられており、「娘」が単数であれば聖母マリアを指すと解釈できる。

13 節、ブレントンが「エセボン Esebon 王の娘」とする語を、ラールフス、オックスフォード英訳者、「テオドロス詩篇」はみな esothen（内に）とした。「栄光をうちに抱き、王の娘は……」となるほうが、詩的にも予型論的にも好ましいだろう。

18 節「彼らは記憶するだろう（語り継ごう）」は、ブレントン、ラールフスともに「彼らは記憶するだろう」と三人称複数を採るが、オックスフォードの英訳者(13)ならびに「テオドロス詩篇」は「私は記憶しよう」と一人称単数で、これもマソラ本文に近い。本稿は写本挿絵研究ではないので、詩篇本文の問題はこれ以上議論しないが、挿絵と本文が密着する写本研究の場合、活字校訂版に無前提に依拠するのは危険である。

ちなみに詩篇を正教神学に基づいて解釈した挿絵を施す「テオドロス詩篇」は、44 篇 3 節に「神の右手」と「聖母子」のメダイヨン（f.55v）、7 節に「インマヌエル坐像」とダヴィデ（f.56r）、11 節に「受胎告知」とダヴィデ（f.56v）、15 節に「聖母神殿奉献」（f.57r）を描いている。詩篇 44 と聖母との関係は、後に詳述する。

詩篇 44 と典礼

この詩篇は正教典礼において、どのように用いられるか、「大教会（メガリ・エクリシア）（＝アギア・ソフィア大聖堂）典礼書（ティピコン）」(14)によって確認しよう。18 節「人々は（あなたの名を）（幾世々までも）記憶するだろう」は詩篇特有の万能句で、光明週間水曜、復活祭第 2 月曜、四旬節 3 週月曜晩課、大祭朝課、9 月 1 日新年、9 月 8 日聖母誕生、等様々な機会にプロキメノン（ポロキメン）prokeimenon として朗唱される(15)。これらの祭日には典礼上の共通性は

(9) L.C.L. Brenton, *The Septuagint with Apocrypha: Greek and English*, London 1851.
(10) A. Rahlfs, R. Hanhart, *Septuaginta*, Stuttgart 2006.
(11) テクストの問題は以下参照。J.K. Aitken, *The T&T Clark Companion to the Septuagint*, London 2015, pp.6-7, 320-34.
(12) http://www.bl.uk/manuscripts/Viewer.aspx?ref=add_ms_19352_f001r（2018 年 4 月 28 日閲覧） 挿絵に関しては以下の近刊参照。辻絵理子『ビザンティン余白詩篇写本挿絵研究』中央公論美術出版。
(13) A. Pietersma, B.G. Wright (eds.), *A New English Translation of the Septuagint*, Oxford 2007, p.570 並びに http://ccat.sas.upenn.edu/nets/edition/24-ps-nets.pdf
(14) J. Mateos, *Le typicon de la grande église*, 2 vols., Roma 1962-63.
(15) Mateos, vol.1, pp.8, 18; vol.2, pp.32, 102, 110, 180.

見られず、単なる神を讃える章句として、この 18 節を利用するものである。

長い章句としては、2〜4 節が 1 月 5 日テオファニア[16]前日（パラモニ）アレルイアとして読まれる[17]。翌日の善きことをあらかじめ祝うものだろう。3 節「優美さがあなたの唇に降り注がれ、よって神はあなたを永遠に祝福した」は、12 月 20 日聖イグナティオスのアレルイアである[18]。1 世紀のアンティオキア主教イグナティオスは、福音書記者ヨハネの弟子[19]とされる人物で、なぜ詩篇 44：3 と結びつくのか不明だが、多くの書簡で知られるイグナティオスの雄弁を讃えたものだろうか。

これ以外はすべて、聖母マリアの祭日に用いられる。9 月 8 日「聖母誕生」では、まず前日（パラモニ）の晩課（エスペリノス）に 18 節「私はあなたの名を記憶しよう」と、11 節「聴け、娘よ、見て、耳傾けよ、あなたの民と父の家を忘れよ」がプロキメノンとして読まれる。次いで本祭日には「民の富は、あなたの顔が向けられることを希う。すべての栄光は金の縁取りの衣装をまとい、刺繍を施した服をまとう王の娘のうちにある」（13〜14 節）がプロキメノンとして、11 節「聴け、娘よ、見て、耳傾けよ、あなたの民と父の家を忘れよ」に始まり、前記 14 節に至る長い章句がアレルイアとして、朗唱される[20]。

「聴け、娘よ、見て、耳傾けよ、あなたの民と父の家を忘れよ。王はあなたの美を望んだのだから」（11〜12 節）は、教養あるビザンティン人なら誰しも、聖母マリアの、特に受胎を予型した章句として直ちに理解した。「テオドロス詩篇」（f.56v）もここに「受胎告知」を描く。「聴け」との言葉は、大天使ガブリエルのお告げ「おめでとう、恵まれた方」（ルカ 1：28）を指すのである。ビザンティン聖堂装飾において、ドームのキリスト・パントクラトール像の周囲、鼓胴部（ドラム）に旧約預言者を配するのは定型であるが、その中でダヴィデはしばしば 11〜12 節の文言を手にして、東側、すなわちアプシス周辺の「受胎告知」に近い場所に描かれる[21]。11〜12 節はまた、8 月 15 日「聖母の眠り」のアレルイアとしても読まれる[22]。マリアの死に際して、その功績を讃える意味で受胎に触れたものだろう。

15〜16 節「乙女らは彼女について王の下に来る。彼女の仲間らはあなたの下に来る。彼女らは喜びと賛美をもって来る、王の神殿に導かれる」は、11 月 21 日「聖母神殿奉献」のアレルイアである[23]。3 歳に達したマリアが神殿に捧げられる際に、後ろを振返って里心がつかぬよう、両親は「汚れなきヘブル人の娘たち」に松明を持たせて間に立たせた（ヤコブ原福音書 7 章）。「乙女らは彼女（＝マリア）について王（＝神）の下に来る」は、そのことを予型する。16 節には「神殿（ナオス）」の語も用いられている。「テオドロス詩篇」（f.57r）も、この箇所に「聖母神殿奉献」を描いた。「テオドロス詩篇」によって神学を学んだストゥディオスの修道士にとって、11 節が「受胎告知」、15 節が「聖母神殿奉献」を予型する、という解釈は自明のことであった。ペリブレプトス聖堂本堂（ナオス）にも、両場面が描かれている。

元来結婚を言祝ぐ詩篇 44 は、キリストの花嫁たる聖母マリアに相応しい章句に満ちていた[24]。ペリブレプトス聖堂ナルテクスにおいて、大天使ガブリエルの巻物を読んだ信徒は、詩篇 44 を想起し、この美しい詩が聖母を讃えるものであることに気づく。当聖堂は聖母マリアに捧げられており、このナルテクスは聖母を予型する旧約の章句に取材して装飾がなされているのである。

---

⑯ カトリックは「マギの礼拝」とするが、正教では「キリスト洗礼」を祝う。

⑰ Mateos, vol.1, p.180.

⑱ *Ibid*., vol.1, p.140.

⑲ 拙稿「パナギア・ペリブレプトス聖堂（オフリド）ディアコニコンの装飾プログラム」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』62 (2017), pp.321-33 において、誤って「洗礼者ヨハネの弟子」とした。訂正する。https://www.waseda.jp/flas/glas/assets/uploads/2017/03/2017_masuda_321-333.pdf

⑳ Mateos, vol.1, p.20.

㉑ A-M.Gravgaard, *Inscriptions of Old Testament Prophecies in Byzantine Churches*, Copenhagen 1979, pp.26-34, esp.28-29. T. Παπαμαστοράκης, Ο διακόσμος του τρούλου των ναών της Παλαιολογείας περιόδου στη Βαλκανική χερσόνησο και στην Κύπρο, Athens 2001, p.188 の作例も参照。

㉒ Mateos, vol.1, p.372.

㉓ *Ibid*., p.110.

㉔ メシア詩篇 44 篇における神の花嫁たるエルサレム＝シオンが、キリストの花嫁マリアに読み替えられた。

聖母の祭日と旧約聖書

今詩篇 44 の読まれる典礼を、通時的に概観した。正教世界では、聖母マリアの祭日は 9 月 8 日誕生、11 月 21 日神殿奉献、8 月 15 日眠りの 3 日である。この 3 日間の典礼において旧約諸書がどのように読まれるか、共時的に確認しておこう。

9 月 8 日聖母誕生[25]

・（前日晩課（パラモニ））創 28：10–17　天にまで達する梯子を天使が昇り降りする挿話。ナルテクス西壁北側に「ヤコブの梯子／天使と格闘するヤコブ」の情景が描かれている[26]。天と地を結ぶ梯子は、キリストを受肉したマリアの予型である。

・詩 44：18、詩 44：11（前節参照）

・エゼ 43：27–44：4　神のみが入ることのできる「閉ざされた門」の挿話。ナルテクス東壁南側に「エゼキエルと閉ざされた門／イザヤの炭火」の図像が配される[27]。

・詩 86：3、詩 86：1–2「栄光ある者があなたに語りかけた、神の町よ」（86：3）、「彼の礎は聖なる山々にあり。主はシオンの門（複数）を愛し給う、ヤコブの住処すべてよりも」（86：1–2）。神の町、シオンの門は、聖母の詩的な隠喩。「聖なる山」は神の宿る場所であり、マリアを予型する。「神はテマンから来る、聖なる方は鬱蒼とした森の山から」（ハバ 1：3）[28]や、「人手によらず切り出された石」（ダニ 2、後節参照）を想起。後者では石がキリストの予型、石の切り出された山が聖母の予型となる。「ヤコブの住処」の「住処」は skenoma で質素な家を示すが、村岡崇光は詩篇 14：1「主よ、誰があなたの住処（スキノマ）に留まろうか、誰があなたの聖なる山に宿営しようか」を引いて、skenoma はエルサレム神殿を示唆するとしている[29]。神殿もまた聖母の予型である。

山が聖母マリアの予型である、というのは広く共有された知識であるが、ペリブレプトス聖堂ナルテクスのプログラム解釈にとっても一つの鍵となる。中後期ビザンティン美術に大きな影響を与えたダマスコスのヨアンニスは、「聖母誕生」に関する説教[30]の中で、詩篇 67（68）：16–18「神の山よ、豊かな山。凝り固まれる山よ、豊かな山！　凝り固まれる山々よ、なぜおまえたちはそれが、神の喜び宿る山であると思うのか。そう、神は最後にそこに宿営する。神の戦車は幾千万にも連なり、幾千にも富み栄える。（主は聖なる地、シナイの山々にあり）」を引用して[31]言う。「私はケルビムとセラフィムのことを言っているのだ！　シナイより聖なる頂、煙（出 19：18）でもなく影でもなく嵐でもなく怖ろしき火でもなく、至聖なる聖霊の輝ける光に覆われたその頂。そこで神の言葉が、聖霊を指となして、律法の石板に記された。しかしこの方（マリア）において、ロゴスご自身は聖霊の働きと彼女の血とによって、肉となられた……」。

「神の宿るところ」という共通性から、神学者らはマリアと山を予型論的に結びつけた。ヨアンニスが「（シナイ山の）怖ろしき火」と言うのは、「燃え尽きることのない柴」（出 3：1 以下）[32]の挿話であり、また「律法の石板」云々は十戒への言及である（出 20 等）。ペリブレプトス聖堂ナルテクスでは西壁中央、すなわち扉口上部に「モーセと燃える柴／律法の授与」の場面が描かれている[33]。その対面、東壁中央に堂々と君臨するのが、聖堂の献堂聖者イコンとも言うべき「クリスマス讃歌」である[34]。この両場面がナルテクスの中央で対

---

(25) *Ibid*., pp.18-20.

(26) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.318-19.

(27) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.322-23.

(28) 拙著『ビザンティン聖堂装飾プログラム論』中央公論美術出版、2014 年、p.481. ペリブレプトス聖堂ではドーム鼓胴部の預言者ハバククが、この章句の巻物を手にしている。

(29) T. Muraoka, *A Greek-English Lexicon of the Septuagint*, Louvain/ Paris/ Walpole, MA 2009, p.624.

(30) *PG* に収録なし。B. Kotter (ed.), *Die Schriften des Johannes von Damaskos*, vol.5, Berlin/ New York 1988, pp.169-82; M.B. Cunningham, *Wider than Heaven. Eighth-century Homilies on the Mother of God*, New York 2008, pp.53-70.

(31) ヨアンニスの詩篇引用は校訂版とはかなり異なっている。違う系統の写本に基づくものか、ヨアンニスの記憶による変改か。Cf. Kotter, p.175. カニンガムはヨアンニス本文から訳出している。Cunningham, p.61. いずれにせよヨアンニスの聴衆は、註解なしに彼の言葉を詩篇の引用として理解したのである。

(32) 出 19：18 も参照。

(33) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.317-18.

置させられたのは、偶然ではない。聖なる山シナイと、神宿る聖なる山＝マリアの対比によって、シナイ山よりもマリアがはるかに聖なる存在であることが際立つ。説教において両者を対照したダマスコスのヨアンニスは、「クリスマス讃歌」の著者と信じられていた。

燃える柴からモーセに語りかけた神は、自ら「私は在（オ・オン）るという者だ」ἐγώ εἰμι ὁ ὤν（出 3：14）と名乗る。この ὁ ὤν の語[35]はビザンティン図像学において、キリストのニンブスの十字架に 3 文字分割して記される。さらに「クリスマス讃歌」の玉座の背もたれ布の装飾の中に、ὁ ὤν が隠し文字として描かれていたことを想起しよう。ダマスコスのヨアンニスと詩篇を註解として読むなら、シナイ山におけるモーセの 2 場面は聖母を讃えるためにとりわけ相応しいことが理解される。

・箴 9：1–11 「知恵（ソフィア）は自身で家を建て、それを 7 本の柱で支えた」に始まる挿話。ナルテクス南壁に「神殿を建てるソフィア」が、この章句に基づいて描かれている[36]。

・（朝課（オルトロス））ダニ 3：57「主を祝福せよ、主の仕事すべてを、讃歌を歌え、彼を永遠（とわ）に高く挙げよ」[37]。神を讃美する一般的な章句ではあるが、三少年がネブカドネツァル王の燃え盛る炉から無事に帰還したことを感謝する祈りである点に注目したい。後節「ダニエルによる終末論」参照。

・（奉神礼（リトゥルギア））詩 44：11–14（前節参照）

・詩 131：1–2「主よ、ダヴィデとその柔和さすべてを記憶していてください。いかに彼が主に誓い、ヤコブの神に誓願したか」。「ヤコブの神」は詩篇に頻出する神の呼称であり、ここでは特に聖母との関わりは認められないだろう[38]。

・詩 115：4「救いの杯（を私は飲み干す、主の名を私は呼び求める）」は、聖母の隠喩である。聖母の祭日すべてを締めくくる語として用いられる。

<u>11 月 21 日聖母神殿奉献</u>[39]

・ヘブ 9：1–7　聖母祭日に読まれる旧約章句を検討するのが本節の意図であるが、「ヘブライ人への手紙」はペリブレプトス聖堂ナルテクスの解釈に重要であるため、あえてここで論ずる。

> さて、最初の契約にも、礼拝の規定と地上の聖所とがありました。すなわち、第一の幕屋が設けられ、その中には燭台 lychnia、机 trapeza、そして供え物のパン prothesis ton arton が置かれていました。この幕屋が聖所 hagia と呼ばれるものです。また、第二の垂幕の後ろには、至聖所 hagia hagion と呼ばれる幕屋がありました。そこには金の香壇 thymiaterion と、すっかり金で覆われた契約の箱 kibotos tes diethekes とがあって、この中には、マンナの入っている金の壺、芽を出したアロンの杖、契約の石板 plakes tes diathekes があり、また、箱の上では、栄光の姿のケルビムが償いの座を覆っていました。こういうことについては、今はいちいち語ることはできません。
>
> 以上のものがこのように設けられると、祭司たちは礼拝を行うために、いつも第一の幕屋に入ります。しかし、第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入りますが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます。

---

(34) 同上 pp.316-17.

(35) 黙 1：4、1：8、4：8、11：17、16：5 に用いられる。ヨハ 8：24、8：28、8：58、13：19 の ἐγώ εἰμι も同義である。

(36) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.321-22. ドーム鼓胴部の預言者ソロモンも、この章句を手にする。

(37) ダニエル書はマソラ本文と七十人訳が大きく異なり、七十人訳は旧約外典「ダニエル書補遺 アザルヤの祈りと三人の若者の賛歌」を、ダニエル書本文に採りこんでいる。ビザンティン詩篇写本の多くは、この「三人の若者の賛歌」を頌歌（オード）として巻末に収録する。

(38) マサラ 46：12「ヤコブの神は私たちの砦の塔」は聖母の予型とも読めるが、七十人訳 45：12 では「ヤコブの神は我らが救い手」である。マサラ 114：7–8「地よ、身もだえせよ、主なる方の御前に／ヤコブの神の御前に／岩を水のみなぎるところとし／硬い岩を水の溢れる泉とする方の御前に」、七十人訳 113（114, 115）：7–8「主の御前に地は震え、ヤコブの神の御前に。岩を水の湖（うみ）となし、硬い岩を水の泉となす」における、岩から水があふれるイメージは、聖母と結びつく。拙稿「聖母よ、御腕を支えん―オフリド、パナギア・ペリブレプトス聖堂アプシスの旧約人物像について」『Waseda RILAS Journal』1 (2013), pp.17-27, esp.24-25. https://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2013/10/b75a1174ea335b9ad339f4bc4185fc97.pdf

(39) Mateos, vol.1, p.110.

この幕屋の記述は、創世記を除くモーセ五書（＝律法）のあちこちから採られた[40]要素の要約版であり、至聖所 hagia hagion の語が登場する。「聖母神殿奉献」はギリシア語で ta hagia ton hagion もしくは ta eisodia tes Theotokou と呼ばれるので、新約中唯一「至聖所」の語を用いるこの章句が、祭日に相応しいと考えられた。ここでなされる幕屋の描写は、ナルテクス東壁北側の「モーセの幕屋」【図 4】[41]の典拠となっていると言っても過言ではない。壁画には祭壇前面、聖櫃、マナの壺、七枝の燭台の 4 箇所に聖母のメダイヨンが施され、これらが聖母の予型であることを表している。ケルビムも芽吹いたアロンの杖も、フレスコに描かれている。

図 4　ナルテクス東壁北側の「モーセの幕屋」と大天使ミカエル

祭壇は通常 trapeza だが、thymiaterion の語を用いる場合もあり、壁画がどちらを絵画化したのか明確でないが、いずれでも問題ない。「アロンの芽吹いた杖」（民 17：16–26）のエピソードを予型として、「ヤコブ原福音書」9 章はマリアの婚約者を大工のヨセフと決定した。本堂（ナオス）聖母伝サイクルには、「杖の提出」から「ヨセフへの聖母の手渡し（聖母の結婚）」の 2 場面に亘って、このアロンの杖に基づく「生ける杖」が描かれる。つまりナルテクスの「モーセの幕屋」は、旧約とマリア伝を杖という共通のモティーフによってつなぐ役割を果たしている。「年に一度、大祭司だけが」入ることを許された至聖所に、3 歳のマリアは入って育ったのであるが、そのことはすでに「モーセの幕屋」において予示されていた。

ちなみに先に引いたダマスコスのヨアンニスの「聖母誕生」に関する説教の、続く箇所には、マリアの予型として「モーセの幕屋」が語られ、そこにはマナを容れた壺、燭台、その他のものの記述がある[42]。

・詩 44：15–16（前節参照）
・詩 115：4「救いの杯」

8 月 15 日聖母の眠り[43]

・（アコルティア）創 28：10–17（9 月 8 日参照）
・エゼ 43：27–44：4（9 月 8 日参照）
・箴 9：1–11（9 月 8 日参照）
・（奉神礼（リトゥルギア））詩 44：11–12（前節参照）
・詩 115：4「救いの杯」「聖母の眠り」は最大の聖母祭日であるが、一年の終わりであるために、新たな章句は読まれない。誕生と神殿奉献で既に用いられた章句が繰返されるのみである。

詩篇から雅歌へ

第 4 節は「剣を腰に佩け、力強き者よ、あなたの盛りと美の中で」である。この章句は雅歌 3：7–8「見よ、ソロモンのベッドを。強きイスラエルの男たちの中の 60 人の力強き者が囲む。みな剣を持ち、戦に秀でる。みな夜襲に備えて、腰に剣を佩く」を想起させる。「力強き者」dynatos、「剣を腰に」romphaia epi meron の語が共通するからである。雅歌のこの章句に取材する「ソロモンのベッド」が、ペリブレプトス聖堂ではナルテ

(40) 典拠は『聖書　引照つき』（日本聖書協会）等参照。
(41) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.320-21.
(42) Kotter, p.176; Cunningham, p.62.
(43) Mateos, vol.1, pp.368-72.

図 5　ナルテクス西壁南側「ソロモンのベッド」

クス西壁南側に描かれている【図 5】[44]。

前稿に記した通り「ソロモンのベッド」図像の初出は、ヤコボス・コキノバフォスによる「聖母讃詞集」2 写本（Cod.Paris.gr.1208, f.109v[45], Cod.Vat.gr.1162, f.82v[46]）である。写本は限られた共同体の中で鑑賞されるもので、図像伝播力は極めて弱い。だから修道僧ヤコボスは、12 世紀前半コンスタンティノポリスのいずれかの聖堂壁画として描かれていた「ソロモンのベッド」を、写本挿絵として採用したものだろう。ベッドをマリアの予型と見なし、そこに横たわるキリストを描く「定型」を、ペリブレプトス聖堂は再解釈した。受肉の神秘を強調するために、黒髪黒髯のキリストに代わって、マリアの懐に半ば隠れる幼子イエスの半透明イコンを描いたのである。

詩篇 44 はとりわけて雅歌との関わりが深く、第 9 節「没薬（スミルナ）と没薬（スタクティ）の油、肉桂（カシア）があなたの衣から香る」にも言及しておかねばなるまい。ただし七十人訳における植物の問題は、錯綜した事情を有する。ヘブライ語のマサラ本文と七十人訳ギリシア語との乖離、ヘブライ語とギリシア語の植物名がそれぞれ今日のどの植物と同定されるかという植物学上の問題、そして植物学上の議論に関わらず、当時の人々がその語彙からいかなる植物を想起したかという受容の問題が存在するのである[47]。

新共同訳 45：9 には「ミルラ、アロエ、シナモン」の三つの植物が列挙される。この三種の植物の組合わせは、箴言 7：17[48]にも見られるように時には性的な含意すらもつ芳香であり、婚礼に相応しい。ミルラ（ヘブ：mor）が没薬（希：smyrna）であり、シナモン（ヘブ：kinamon / kinnemon、希：kasia）が今日のシナモンの類であることは問題ないようだが、アロエ（ヘブ：ahalim / ahaloth）は沈香樹である、と多くの植物学者は言う。七十人訳はこれを没薬（スタクティ）の油と言い換えた。

没薬と没薬の油の反復的結合によって、キリスト教世界では葬礼の含意が強くなる。マギが東方からもたらした三つの贈り物（マタ 2：11）のうち、没薬はキリストの死を予告すると考えられたし、イエスは十字架に

---

(44) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.323-24.

(45) http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b10723812k/f118.image

(46) https://digi.vatlib.it/view/MSS_Vat.gr.1162

(47) 類書は極めて多い。若干挙げるに留める。H.N. Moldenke, A.L. Moldenke, *Plants of the Bible*, New York 1952; L. J. Musselman, *A Dictionary of Bible Plants*, Cambridge 2011. 邦語では古くは 別所梅之助『聖書植物考』警醒社書店、1921 年（有明書房、1975 年）；H&A・モルデンケ、奥本裕昭編訳『聖書の植物』八坂書房、1981 年（『聖書の植物事典』として 2014 年）；大槻虎男『聖書植物図鑑』教文館、1992 年；W・スミス、藤本時男編訳『聖書植物大事典』国書刊行会、2006 年（原著 1863 年）；西南学院大学聖書植物園書籍・出版委員会編『聖書植物園図鑑』丸善プラネット、2017 年。日本語の場合は、本邦に自生しない植物を近似種で表す、という問題がさらに生じる。

(48) 同箇所の七十人訳はこれをサフランとシナモンとした。

架けられる前に没薬を混ぜたワインを飲ませられようとした（マコ 15：23）。ヨハネはイエスの弔いについて、「かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬と沈香を混ぜた物を百リトラばかり持って来た」（19：39）と語る。沈香（希：アロエ）は、詩篇 44 のマソラ本文で語られたアロエであり、日本聖書協会訳は混乱している。

詩篇 44：9 ギリシア語訳から人は、香しさ、婚礼の準備を思うと同時に、死、弔いをも想起する。ナルテクス中央天井には「天使キリスト」が君臨し、手には「今日、救いが世にもたらされる、見える世界にも、見えざる世界にも」（グリゴリオス、第 45 説教（復活祭に関する第 2 説教））との文言を記した巻物を持つ[49]。すなわちナルテクスは聖母を予型する旧約の諸主題を描きながら、最終的にはキリストの復活による救済を謳いあげる構想となる。西壁南の「ソロモンのベッド」はイエスとマリアの婚礼＝受肉を語り、その場に漂う没薬と没薬の油は、婚礼を言祝ぎつつ、受難をも予告する。マリアは息子の死を嘆かねばならず、その哀しみを通じてのみ、人間の救済は成就する。

ダニエルによる終末論

北扉口の上部リュネットには、「ネブカドネツァルの夢／ダニエルの夢解き」（ダニ 2 章）が描かれている[50]。「人手によらずに切り出された石」（ダニ 2：45）が処女懐胎によって誕生したイエスの予型である、との解釈は珍しくないが、その情景を 2 場面に亙って説話的に描写する図像は稀である。大天使ガブリエルの手にする終末論的銘文は、その上のダニエルの情景と響き合って、ダニエル書 5：5–29 のエピソードを想起させる、とシュレーダーは言う[51]。エルサレム神殿から奪った器で宴会をしたベルシャツァル王（ネブカドネツァルの息子、希：バルタサール）の王宮の白い壁に、人の指が現れて文字を書いたのであった。ダニエルはこの謎を解き、敬神の念なきゆえの国の滅びを予告する。

ベルシャツァル王の不敬は、エルサレム神殿から略奪した器で宴会をするというエピソードによって象徴されている。ペリブレプトス聖堂ナルテクスの東壁北側、ダニエルの区画の右隣には「モーセの幕屋」が配される。モーセとアロンが立つ幕屋には、聖母マリアを予型する契約の櫃、マナの壺、七枝の燭台等の祭具が置かれている。シュレーダーの連想解釈が正しければ、ベルシャツァル王が冒瀆したのは聖母マリアを予型する神殿祭具ということになろう。

ペリブレプトス聖堂には、ダニエル書由来の主題が他にも見受けられる。ネブカドネツァル王の夢解きをして信頼を得たダニエルは、3 人の若者をバビロン州の行政官に任命してもらう。この 3 人は王の信じる黄金の像を崇拝しなかったために、炎の燃え盛る炉に投げ込まれた（3 章）。この場面はディアコニコン北壁に描かれて、重層的な機能を果たしている[52]。三少年が無事に帰還したことを感謝して、神を讃える歌（ダニ 3：57）は、先に述べた通り 9 月 8 日「聖母誕生」の祭日に読まれる。加えて 5 章「壁に字を書く指」が暗示されるなら、本聖堂ではダニエル書 2、3、5 章を通じて、終末の予告、神への信仰による救済が語られることになろう。7 章の「日の老いたる者」（7：9）は、本堂（ナオス）西腕ヴォールト中央に描かれる。

「モーセの幕屋」の下部、つまり大天使ガブリエルに隣接する壁面には、大天使ミカエルが配されていた[53]。何らかの事情で大半が破壊されているが、左手の巻物には「邪なる心をもちて、この神の清浄なる家に入らん者はすべて……」[54]との銘が読みとれる。上部「モーセの幕屋」と合わせて、聖所に入ることの困難さを語るとともに、終末の裁きに触れている。ミカエルはダニエル書 12 章において、終末に際して現れることが記されている。ナルテクス北壁面（上：ネブカドネツァルの夢／ダニエルの夢解き、下：大天使ガブリエル）と東壁面北側（上：モーセの幕屋、下：大天使ミカエル）は、ダニエル書を鍵として読み解けば、終末の裁きの暗

---

(49) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」pp.314-16.
(50) 同上 pp.319-20.
(51) Schroeder, p.122.
(52) 拙稿「ディアコニコンの装飾プログラム」pp.327-28.
(53) 拙稿「ナルテクスの装飾プログラム」p.314.
(54) Rhoby, pp.150-53; Schroeder, p.122.

示に満ちている。

ナルテクスの大天使ガブリエルが持つ銘の「速やかに物書くペン」という語から、詩篇 44 を想起し、さらにそこから連想は雅歌、箴言、ダニエル書等々に拡大してゆく。無論ビザンティンの農民や職工がこのような高度な解釈を楽しんだ訳ではない。しかしいくつかの聖堂装飾や、余白詩篇挿絵を見れば、ビザンティンの教養ある人士は上に述べたような思考をなしたことがわかる。ペリブレプトス聖堂で言うなら、ナルテクスは旧約世界、本堂（ナオス）は新約世界を描くが、両者は様々なネットワークによって結びついている。彼らにとってそれは「神の意思」であっただろう。私たちは机の周りに数十冊の書物を並べ、あちらこちらを紐解くことによって、何とか彼らの思考の道筋を追いかけるべく悪戦苦闘する。

【後記】本研究は JSPS 科研費 26284025 及び 18H00632 の助成を受けたものである。
【図版出典】図 1、3～5：菅原裕文氏（金沢大学）撮影
図 2：筆者撮影